

地球温暖化対策実施状況報告書

2019 年 7月31日

（報告先）
横浜市長

住所 横浜市旭区本宿町5番地

氏名 高梨乳業株式会社
代表取締役社長 高梨 信芳

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	高梨乳業株式会社 代表取締役社長 高梨 信芳				
事業者の主たる 事業所の所在地	横浜市旭区本宿町5番地				
主たる事業の業種	大分類	E 製造業			
	中分類	09 食料品製造業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	4,637	kl	自動車の台数	台

2 計画期間及び実施年度

計 画 期 間	2016	年度 ～	2018	年度	実 施 年 度	2018	年度
---------	------	------	------	----	---------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針]</p> <p>弊社グループにて行っているISO14001の取組みの中で、エネルギー使用量、CO2排出量の削減を目標に掲げている。取締役生産統括部長を委員長とし、「省エネ委員会」を継続実施するほか、生産部門の「環境四半期レビュー会議」の中で、省エネルギーの推進とCO2排出量の削減に関して、計画の作成と達成度のチェックを行い、新たな対策の立案、スケジュール化を進めている。</p> <p>横浜市内には本社、横浜工場（第1種エネルギー指定管理工場）、商品研究所など、弊社の基幹事業所があり、弊社グループ全体の目標を達成するためにも、本計画は大変重要となっている。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討]</p> <p>①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 横浜工場チルド冷凍機、牛乳充てん施設の更新。</p> <p>②上記①の設備を選択した理由 老朽化の進んだ設備の高効率設備化に向けた更新。</p> <p>③設備更新スケジュール 平成28年～30年（順次実施）</p>

4 推進体制

別紙、推進体制図



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	高梨乳業株式会社 企画センター
	所在地	横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPイーストタワー 13F
	閲覧可能時間	午前10:00~12:00 午後1:00~5:00
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	8,387	t-CO ₂			基準原単位	t-CO ₂ /	
	調整後	8,013	t-CO ₂			目標原単位	t-CO ₂ /	
目標年度 (2018年度)	目標排出量	8,135	t-CO ₂	削減率	3.0 %	削減率	%	
排出の抑制に係る 目標の設定の考え方	生産設備の増強を終え、生産量の増加によるエネルギー使用量の増加が考えられるが、老朽化した設備の更新、各省エネ対策の実施により総排出量で年平均1%以上の削減を目標とする。							
事業者全体としての 目標等	横浜市内だけでなく、企業全体として効果の高い、コストパフォーマンスに優れた施策から計画・実施し、事業者全体として総排出量での削減を目指していく。							
第一年度 (2016年度)	排出量	8,663	t-CO ₂	削減率	▲ 3.3 %	排出原単位	t-CO ₂ /	
	調整後	8,143	t-CO ₂	削減率	▲ 1.6 %		削減率	%
目標等の達成状況 及び説明	排水処理設備の増強、品質向上のための機器の動力増加、エネルギー原単位の高い製品の生産増。							
第二年度 (2017年度)	排出量	8,869	t-CO ₂	削減率	▲ 5.8 %	排出原単位	t-CO ₂ /	
	調整後	8,358	t-CO ₂	削減率	▲ 4.3 %		削減率	%
目標等の達成状況 及び説明	品質向上のための機器の動力増加、新商品設備導入工事、試作によるエネルギー増加、省人化設備導入によるエネルギー使用量増加。							
第三年度 (2018年度)	排出量	9,295	t-CO ₂	削減率	▲ 10.8 %	排出原単位	t-CO ₂ /	
	調整後	8,649	t-CO ₂	削減率	▲ 7.9 %		削減率	%
目標等の達成状況 及び説明	エネルギー使用原単位の大きい製品の生産が増加したことに加えて、新しい生産設備の建設があり、エネルギー使用量が大きく増加した。							
計画期間全体の排出 状況に関する説明	当初、老朽化設備の更新による年平均1%（総排出量）削減の計画であったが、一部、設備更新の遅れがあったことと、製品品質向上のための設備追加、排水処理等の環境負荷低減のための設備の新設、新製品開発のための生産設備の増設があり、目標未達成となった。							

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 (年度)	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /	
	調整後						t-CO ₂ /		
目標年度 (年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方									
事業者全体としての目標等									
第一年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
計画期間全体の排出状況に関する説明									

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)
3,000k l 以上	1	8,103	1	8,389	1	8,603	1	9,012
1,500k l 以上 3,000k l 未満								
500k l 以上 1,500k l 未満								
500k l 未満	4	284	4	274	4	266	4	283
合計	5	8,387	5	8,663	5	8,869	5	9,295

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	3/3	—	年度	設備の管理権限のない2事業所を削除しました。	実施済	3/3	—	年度		実施済	3/3	—	年度		
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	3/3	—	年度	設備の管理権限のない2事業所を削除しました。	実施済	3/3	—	年度		実施済	3/3	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	非該当	非該当	/	—	年度	該当設備なし	非該当	/	—	年度	該当設備なし	非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	非該当	/	—	年度	該当設備なし	非該当	/	—	年度	該当設備なし	非該当	/	—	年度	該当設備なし	
	13	照明設備の高効率化	事業所	実施済	実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		実施済	5/5	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	非該当	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		
	18	排出ガス温度の管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 5/5	—	年度		
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ボイラー、ヘッダー 12/12	—	年度	ボイラー台数からバルブ、ヘッダーの数へ変更した	実施済	(設備の種類)ボイラー、ヘッダー 12/12	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー、ヘッダー 12/12	—	年度		
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備なし	
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	実施済	実施済	(設備の種類)コンプレッサー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)コンプレッサー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)コンプレッサー 6/6	—	年度		
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類)コンプレッサー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)コンプレッサー 5/5	—	年度		実施済	(設備の種類)コンプレッサー 6/6	—	年度		

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度				
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			

10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

- （注意事項） ・対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。
 ・燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。
 ・記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者総排出量 (t-CO2)		CO2排出量合計① (t-CO2)		CO2排出量合計② (t-CO2)		削減量合計 (t-CO2)					
		0.82 %		9,295		616.3		539.6		77					
連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
1	大冷蔵庫の冷凍機運転を季節別管理（冬季停止）	横浜工場	2016	冬季運転しない冷凍機の待機電力：14.5kW/日×120日=1740kWh	上記以外の買電	1,740	kWh	0.9	冬季運転しない冷凍機の電源を遮断し、待機電力：14.5kW/日×120日=1740kWhを削減	昼間買電	0	kWh	0.0	0.9	千円
2	製造量により殺菌機の運転台数削減	横浜工場	2016	UHT殺菌機（15kW/h）×2台：立ち上げ、洗浄の動力あり 30kW/h×100日=3,000kWh	昼間買電	3,000	kWh	1.5	UHT殺菌機（15kW/h）×1台：立ち上げ、洗浄の動力を削減。 15kW/h×100日=1,500kWh	昼間買電	0	kWh	0.0	1.5	千円
3	2017年10月よりエネルギー負荷の高い殺菌機の運転時間削減	横浜工場	2017	MF殺菌機 平均1000kWh/日	昼間買電	180	千kWh	92.2	MF殺菌機 平均500kWh/日へ削減	昼間買電	90	千kWh	46.1	46.1	千円
4	排水処理ブロワポンプの更新	横浜工場	2018	曝気用ルーツブロワ30kW×3台 インバーター制御	上記以外の買電	877	千kWh	449.0	72.2kWターボブロワに換装 インバーター制御 DO制御	上記以外の買電	833	千kWh	426.5	22.5	千円
5	大冷蔵庫出荷ピット冷却時期見直し	横浜工場	2018	大冷蔵庫出荷ピット空調他 通年運転	上記以外の買電	142	千kWh	72.7	大冷蔵庫出荷ピット空調他 冬季間停止	上記以外の買電	131	千kWh	67.1	5.6	千円

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1	高効率コジェネの利用	1997年度	定格出力382kW（520PS） 排熱利用量11,422GJ 発電効率36.2%	削減効果321t-CO ₂
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	325t-CO ₂	東京電力エナジーパートナー ㈱
2	高効率コジェネ の利用	2018年度	横浜工場から排出される 排出量の全部	321t-CO ₂	省エネ効率33.6% 総合エネルギー効率76.6%
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	<ul style="list-style-type: none"> ○製品副産物を除く廃棄物量を総量で前年対比2%以上削減。 ○廃棄物のマテリアルリサイクルの推進。 ○本社敷地内のバラ園整備による緑地保全。
計画期間内に 実施する対策	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物量を総量で前年対比1%以上削減。 ○廃棄物のマテリアルリサイクルの推進。 ○本社敷地内のバラ園整備による緑地保全。
第一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物は商品構成の見直しによるロス削減やリサイクル推進により前年比8.7%削減。 ○コンテナクリームの内袋ビニール袋を回収水を利用し洗浄、マテリアルリサイクル化した。 ○本社敷地内のバラ園は週1度の手入れ整備により緑地保全の維持を継続。
第二年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○第一年度実績の継続 ○洗浄水を大量に使用する機器の稼動見直しにより水使用量3.2%削減。
第三年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○第一、第二年度実績の継続 ○5月～10月、クールビズ実施。 ○社有車のハイブリッド車の導入。

14 実施状況等に対する自己評価

生産工数の増加により、エネルギー使用量が増加、結果としてエネルギー起源二酸化炭素排出量が増加し、総排出量1%削減の目標は未達成。今後は、新しい商品の本格稼働による効率改善と、老朽化設備の更新による高効率設備導入により、二酸化炭素削減に努めていく。
その他の地球温暖化対策として、冷媒フロン類の漏えい対策を強化。事業者全体としては2017年度実績より、算定漏えい量が二酸化炭素換算で1,000 t未満となり、2018年度も1,000 t未満を維持している。

別紙(推進体制)

